

イエスは 主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 126

## 『スタンレーの無条件降伏』

詩篇 37 篇 4～6 節

横山 義孝



この度（2000年11月16日～25日）インドのサトタルに開催された第10回国際クリスチャン・アシュラムに日本から8人の一人として参加を許され、米国から40名、現地インドから20余名の兄姉との親しい交わりと恵みの機会を与えられましたことを感謝するものです。母なるアシュラムの地サトタルは首都デリーから北東へ二百キロ程、ヒマラヤ山系の麓にあり、七つの湖に囲まれた風光明媚な山並みに囲まれていました。半世紀以上に渡るスタンレーの歴史に残る働きを支えた祈りの地がここにあったかと、感慨一入なるものがあり、不思議な感動を禁じ得ませんでした。

しかし一方でこのたびの短いツアーに於て親しく見聞したインドの状況は、そこでの宣教のきびしさを思い知らされる、歴史的民族的に長い世代にわたって複雑に混淆した階級的宗教社会を思わせるものがありました（人口9億の70%がカースト制を公認するヒンズー教徒）。このような後進的民衆だからこそ、福音を必須とするのであり、若きスタンレーがインド伝道に召された根拠であったのだと思うと同時に、半世紀以上前のこの国の事情は、今日の比でないほどの厳しく困難な伝道状況であったに相違ないと思わされたのです。

スタンレーのアシュラム運動はまさにこの戦いのはげしい国情の現場で、彼自身が直面させられた、祈りと主への明渡しなしにはあり得ない宣教事情から期せずして生まれたものであることを知らされたのです。彼の自筆には次の様にあります。「インドに来て8年ほど経った時、私は破れた付属物を持っていてその結果激しい痙攣が起った。このことは私を神経衰弱にならせ、あらゆる物事が混乱状態になって私を離れ去る様であった…。その時（ラクナウの教会で）神が私に語られた、『お前は私が招いた仕事に対する用意が出来ているか』と。私の答は『いいえ主よ、私は行止りに来てしまい、もう先に進めません』というものであった。神の答は『もしそれを私に委ねて心配しないなら私が面倒を見てあげよう』であった。『主よ私は今ここでもう取引きは中止して、無条件で一切をお委ねします』と立ち上った時私は健康な人間になった」（インド途上のキリスト）と。

この時のスタンレーの明渡しは無条件降伏であったと知ることが出来ます。「主に自らをゆだねよ」（詩37・4）、「あなたの重荷を主にゆだねよ」（詩55・23）、「心をつくして主に信頼せよ」（箴言3・5口語訳）とあります。「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神があなたがたのことを心にかけてくださるからです」（Iペトロ5・7）。彼がすべてを無条件で主にゆだね切った瞬間聖霊が上から大滝の如く、注がれ、彼には全く予期しなかった、自由と力、希望と喜びが与えられ、病は癒され、以後半世紀の勝利に満ちた、インドのみならず世界宣教のビジョンが実現したのです。聖霊は癒しの霊であり、宣教と証しの霊、愛と真実の霊です。「弟子たちは唯々聖霊のために祈った。無条件に聖霊が注がれるよう祈るからには、無条件で全く主に捧棄した」（日々の勝利）。この21世紀を聖霊を祈り求めて前進しましょう。ハレルヤ。  
（日本基督教団東京新生教会牧師）

旧約聖書 靈想  
『ヨルダンを越えて』

ヨシユア記1・15-19  
泉北ニュータウン教会牧師  
土山 牧 羔

「ただ強く大いに雄々しくあつて、わたしの僕モーセが命じた律法をすべて忠実に守り、右にも左にもそれではならない。そうすれば、あなたはどこに行っても、成功する」(7)。

二十一世紀、政治も経済も教育も真つ暗な中で迎えました。新世紀が神の祝福に満ちた輝く世紀となることを祈りつつ、神とともに前進しましょう。

長い間、新聞紙上で毎日のように報道されている世界史上での最も重大な問題は、アラブ諸国とイスラエルの間の紛争です。これは石油問題とからんで、世界戦争が勃発する危険性を抱えています。その源は今日の聖書の記事に関連しています。

一、共に立ち上り乗越え前進

三千年以上も前に、アブラハムは唯一神教の民族共同体を創設するために神の召しを受け、イラン辺りの故郷から出発してユダヤの土地に向かいました。

偉大な信仰の人モーセは四〇年の長い荒野の旅の果てに死にました。エジプトを脱出して紅海を渡ったイ

スラエルの民は、奴隷の境涯から救い出された神を裏切つて偶像礼拝に熱中し、荒野の旅でモーセに不満をいだきエジプトへの帰還を謀りました。その果に長い年月を空しく放浪し、乳と蜜が流れる約束の地を見ずに皆死に荒地に骨を埋め、今いるのは荒野で生れ育つた第二世だけです。

若きヨシユアは神に選ばれ、民族を指導する任を背負っています。パロ王の宮殿で政治が何かを見覚え

て育つたモーセとは打って違って、荒野の旅でもまれただけの彼は、どんなに困惑したことでしょうか。ただ明るい見通しは、神の導きでヨルダン川の岸边におり、モーセと死んだ父母たちに神が約束した地は、今この川の対岸であることです。

二、死んだモーセから生ける神へ

「モーセは死んだ」の悲痛な声が私たちの魂の奥底にも響くほど、日本の政治・経済・教育を導ける指導者がいません。ヨルダン川は遙か遠い所ではないが、川を渡らせないのは自分の心の状態です。神の恵みは青い鳥のように常にそば近くにあり、神を希望の拠点とした信仰の態度で、自己を神に明け渡すべきです。

「共に、立って」。神の力を共に信頼し寄りすがり、互いに励まし合

い、自分で立ち上がりましょう。「渡り」。自分で乗り越えられな

せる力は、信仰者の心と体の中に働く神です。信仰と兄弟愛は恐れを除き、安定と安全感を与えます。

「行きなさい」。自分の活動の目標への道は、自分で創るものです。自分の目的と計画を明確にし、目標に向かつて熱心に努力しましょう。

三、成功に導く道

聖書は、私たちの信仰と生活を導く誤りの無い基準を示しています。から、聖書に記された教えを「すべて忠実に守り、右にも左にもそれではならない」(7)のです。

世は移り、思想は変わるでしょうが、とこしえに変わらない神の御言葉に従って行動すれば、すべての道で必ず成功することができます。だから、神の御言葉への単純な信頼をもって、神にあって「ただ、強く、大いに雄々しく」(7)前進して、勝利を得ましょう。

彼らは、モーセの十戒が刻まれた石板の入った契約の箱を、民の旅路の先頭となって先立って行かせ、その後を列をなして従い、ヨルダン川に入り、水は乾いて行く道を開き、戦わないでヨルダン川を渡って約束の地に入境できました。

仏教の僧侶からクリスチャン

になった若林節子さん

飯島庸江

この度インド、サトタルでの国際クリスチャンアシュラムに日本から参加した8名の一人であった若林節子さんにいろいろ聞いたことをインタビュー形式でまとめて見ましょう。

T・若林さん、今度のアシュラムにはどういってお気持ちで参加されましたか。

若林・スタンレー師がアシュラムを始められた場所をこの目で見たいと思ひまして。またスタンレー師のお墓があると聞いたので墓参もしたいと思ひました。

T・若林さんは以前、仏教のお坊さんだったそうですが、どういう訳でクリスチャンになられたのですか。

若林・私は8歳でお寺にもらわれて剃髪して出家しました。姉弟子とともにお師匠様に任せ、14歳で、京都の本山、知恩院より「明隋」という法名をもらい正式に出家しました。京都の尼僧学校に入り修行しましたが、戦争が激しくなり、郷里に帰りました。ところが、お師匠様と姉弟子が相次いで亡くなり、お寺の跡を継がざるを得なくなりました。私は法然上人一代記など語るのが得意でした。勝つと信じていた日本が負け

神風信仰も、神国日本も無に帰したことを知った時、念仏三昧へ疑念に捕らわれ、僧籍にあることに自責の念を覚えました。T・それでどうい風になリキリスト教

東京都目黒区中央町1-21-10  
聖文会教会受付

に導かれたのですか。

若林・そばにキリスト教のものはなかったもので、賀川豊彦の本を片はじから読みました。新聞で賀川師が結党大会を開くと知り、満員列車に乗って日比谷公会堂へ賀川先生に会いに行きました。上野に着くと焼け野原で、日比谷公会堂が見えるほどでした。先生は、私が尼僧姿なのを見て、夕方本郷弓町教会で会ってくれました。それは私が入った最初のキリスト教会でした。先生は、いろいろ話してくれましたが、私が覚えてるのは、東洋文明については良く知っているようだが、西洋文明についてもっと学びなさいということでした。

T・富山にはお坊さんからクリスチャンになった有名な方がおられますね。

若林・亀谷凌雲先生ですね。私が子供のころ、先生の教会に托鉢に行くのと、にっこりして小銭を入れてくれたものですよ。今、私は先生の創設された新庄教会に行っているのですよ。

T・お寺はどうして出たのですか。若林・日本で婦人参政権が認められて、私は、富山県の代議士の演説を国会議事堂に傍聴に行きました。その時、毎日新聞の女性記者のインタビューを受けました。「キリスト教を研究しています」といったのに、

「墨染めのクリスチャン」というタイトルで全国版の記事が載りました。そのために、私は寺に居ることができなくなったのです。

T・それでどうしたのですか。

若林・寺を出て、髪が伸びるまで広島島の知人の家に置いてもらいました。その後、関西汽船で四国からの帰路大阪で一人住まいの藤岡という女性より娘になってもらいたいと言われ、藤岡姓になりました。二年ほどで条件が整いましたので、正式に僧籍を離脱しました。

T・キリスト教会へはどういう風に導かれたのですか。

若林・その藤岡さんがクリスチャンで、自分の行っている扇町教会へ連れて行ってくれました。教会へは、出入りしていましたが、なかなか受洗には至らなかったのです。祈ろうとすると念仏三昧になってしまい、折れなかったからです。ところが、ジェーン台風の後、住宅金融公庫の規則が、抽選より申し込み順に変わったので、藤岡さんと直ぐ申し込みに行きました。20万円のお金が下りたので、90坪の土地に10坪の家を建てました。しかし、藤岡さんが「私が死ねば、この家はあなたのものよ」などというので、人の死を待つて家を自分のものにしたというような考えに悩み、ここから開放してもらえらるならと中路嶋雄牧師より洗礼を受

けました。

T・アシラムへは、いつ頃、どういうふうにならびかれたのですか。

若林・受洗はしても、二年ほどはぼんやり過ごしてしまっただけです。あの時、スタンレー師が関西でアシラムを開くと聞き、もう一人の女性の信徒と出席しました。一人づつ順に祈る時、私は何を祈ったら良いかわからなかったのです。祈ろうとすると、南無阿弥陀仏が、目の前にだーっと下りて来るので、祈れないのですよ。わたしの番が近づいて来るし、苦しまぎれに聖書を繰りますと、「私たちはどう祈ったら良いかわからないが、御霊みずから、言葉に表せない切なるうめきをもって、私たちのためにとりなしてくださいからである」(ローマ書8章26節)とありました。このみ言により、念仏がさーっと消えて、私は祈れるものとなりました。この集会に出ているかいたら、私は今だに祈れなかったかもしれないません。私は未明に、不断の祈りの部屋に行き、ノートに、そのよろこびを記しました。世話役の先生が、スタンレー師にそれを取次ぎ私が僧侶であったことを知られたスタンレー師は「神は愛なり」という御言と、仏教を去ってキリスト教に来たのだから、そこにとどまりなさい」と言ってくださいました。

T・若林さんはアメリカにいらした

のですね。

若林・はい。証券会社を停年まで勤め、その後、世界婦人矯風会に十年勤めました。日課で愛読していた久布白落実師の「日々の食物」を英訳したくてアメリカに渡りました。ミルズカレッジ等に籍を置き、毎日辞書を引き、タイプを打って翻訳に務め、五年の予定が九年になりました。T・カナダのハリハックスの国際アシラムにも来られましたよね。

若林・行きました。

T・アメリカ人のアシラムの仲間で見知り友人もおられましたね。若林・はい。こちらは覚えていないけども、あちらが覚えていてくれますので。

T・富山とお寺の跡地が若林さんの名義と伺いましたが、そこに教会を建てられるのですか。

若林・教会よりも、アシラムに力を入れたと思っています。アシラムは超教派の働きですし、人々の協力も得やすいのです。

T・若林さんがもと仏教の僧侶で、クリスチャンになったということは、アシラムに集まった人、特にアメリカの人たちの関心を引きましたね。若林・仏教からキリスト教になるということがどういうことなのか、私の経験を通して、知らせたいと思っています。

仏教では、髪を剃って、衣服も黒

振替口座  
東京〇〇一〇〇一―四九五八  
理事長 大石 嗣郎  
編集人 有馬 歳弘  
定価 一部60円 千80円

# はれるやさん

⑥ 谷牧子



の衣を着、煩惱から離れる修行に励みます。托鉢して一日十キロメートルくらい歩きます。また寒の厳しい一月五日から一ヶ月、寒の修行をします。朝5時に寺を出て、受持ちの区域の二十軒を回ると9時になります。小学校は8時に始まっていますので、遅刻して行ったものです。これを、四年生、五年生、六年生とやりました。これは煩惱を断ち切るのに役立ちまして、人のしていることや持ち物にうらやましいと思うことがなくなるのです。こうして修行して極楽往生を願って努力するのです。しかし、キリスト教で新しく与えられた恵みは、イエス様が三日目によりみがえってくださったこと、聖霊なる神様に静聴して導きが与えられること、お祈りができることです。でもね、恵みが本当に分ったのはアメリカから帰ってからですね。やはり

## 第34回関西アシラム

年を取らないとね。祈ることも同じで、本当に祈れるようになったのは、この三、四年ですよ。この頃は、恵みも祈りも身にしむようになりました。

T・若林さん、ありがとうございます。主の御祝福がさらに豊かになりますように、お祈りいたします。

第34回関西アシラムは、10月8日・9日、大津市にあります国際交流セミナーハウスにて開くことができました。この場所は大津市の体育施設や宿泊施設が集まっている閑静な自然に囲まれた、広い場所であり、近くに同じ市立の大きな憩いの施設があってその施設内の大浴場も使用できる恵まれた環境にあります。第一日目最後の福音の時のお話を古河

治先生に戴いたあと、連鎖祈禱に入りました。入浴できる人々はこの大浴場でゆっくりと初日の緊張した心と体を休めました。

今回は、後宮俊夫先生に開心の時のおすすみを頂き、朝の祈りに金武士先生、静聴と分かち合いに平方美代子先生、最後の充満の時を小島十二先生に担当して頂きました。充実した二日間のアシラム集会の中で主の交わりにいる一人一人の上に聖霊の豊かな導きを感じつつ、充満した思いを持って散会いたしました。今回は会場を大津に移してから初めて41名の参加者を得た事も感謝でした。

後宮先生には「み言葉が生活に入っていないといけない」と教えられ、事務局の清水潔先生がこの集会に必要なオルガニストが与えられた証、それぞれの先生方による関西アシラム

の様々な困難を乗り越えて34回まで集会が開かれてきた主の御霊の導きなどどんなことが起こっても今まで絶えず主のみ手が導いてこられた確信あるお話で一杯でした。

今回から戸波淳兄が委員に加われ、連鎖祈禱の責任を負って下さいました。例年ファミリーの一人一人を覚えて一年間祈る事の中で恵まれた証を聞き、次の一年新たなファミリーを覚えて祈る交わりの深さの感謝が満ちていることは、アシラムに参加できる幸せを新たに作る機会となっています。

家族的なしかし厳しい祈りのアシラム集会でした。強い御霊を身にかけて、来年の再会を約しつつ、散会しました。

(報告・書記 小林 勝)

